



# 鹿児島県護憲平和 フォーラム情報

NO—71 2017.3.31

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム E-mail:kenheiwa@bronze.ocn.ne.jp

連絡先：鹿児島市鴨池新町5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

## 衆議院解散・総選挙と消費税

鹿児島県護憲平和フォーラム

代表 伊藤 周平(鹿児島大学教授)



2016年6月、消費税率の10%引き上げを2019年10月に再延期したこともあり、同年7

月の参議院選では、全国32の1人区すべてで野党統一候補が立ち、11選挙区で勝利したものの、比例区や複数区では与党が優勢で、結局、自民党が単独過半数の議席を占め、改憲勢力が憲法改正の発議に必要な3分の2の議席を得るにいたっている。この議席を背景に、安倍首相は、2017年3月に、自民党総裁任期の延長を実現し、悲願の改憲に突き進んでいる。しかし、ここに来て、森友学園問題で足元をすくわれ、7月の東京都議会選挙でも自民党の苦戦が予想され、その勢いに陰りがみえはじめ、南スーダンPKO(国連平和維持活動)に派遣している陸上自衛隊の撤収を表明せざるを得なかった。

森友学園問題では、連日、国会で追及を受け、安倍首相は苦しい答弁を続けているが、政権批判の受け皿になる野党、とくに民進党の支持率が低迷していることもあり、安倍内閣の支持率はそれほど低下していない。森友学園問題隠しのために、本年4月に、衆議院の解散・総選挙に打って出るとの憶測があるが、現状ではそこまで追い詰められていると

は考えにくい。むしろ、長期政権と改憲の実現のため、消費税率10%の引き上げを2度も延期してきた安倍首相である。自身の自民党総裁3期目を勝ち取ったうえで、2018年秋ごろ、消費税率10%の引き上げを2019年10月から、さらに再延期すること(総裁任期が終わる2021年秋ごろまで延期?)を表明して、衆議院解散・総選挙に打って出るのではなかろうか。消費税増税に対する国民の反対は根強く(10%への引き上げには、国民の7割以上が反対している)、消費税増税の先送りを表明しての総選挙であれば、2016年7月の参議院選挙と同様、与党の勝利は堅いからだ。

だとすると、野党としては、消費税増税の延期ではなく、中止、いや5%に引き下げるとい選択肢を明確に示さない限り、次期衆議院選挙で、与党・改憲勢力の議席を3分の2割れに追い込むことは難しい。消費税率の引き上げが延期されているいまこそ、社会保障の財源は消費税しかないという呪縛を解き放つ学習活動を強め、消費税率の引き上げ中止と5%への引き下げ、その減収分は所得税と法人税の累進性の強化によって十分賄えることなど、安倍政権に対抗する対案を提示し、野党共通の政策項目として、次期衆議院選挙の主要争点としていくべきである。

# 2017 国際反戦女性デー & 沖縄現地報告会

## ～「イナグや平和のサチバイ」(女は平和の先駆け)～

講師：浦島悦子さん・沖縄現地報告会



### 《沖縄の現地報告をする浦島悦子さん》

2017年の国際反戦女性デーの催しが、実行委員会を中心に、アイ女性会議、大隅・鹿児島のブロック護憲平和フォーラム、社民党が共催し3月3日に鹿屋市中央公民館、3月4日は県教育会館に120名を集めて開催されました。講師の浦島悦子さんは薩摩川内市出身のフリーライターで沖縄在住。現在、辺野古新基地反対運動のリーダーの一人として活躍されています。(以下県教育会館講演会要旨)

### はじめに

ハイサイ！皆さんこんにちは。いま翁長沖縄県知事は郷土の文化を大事にしようということで、ハイサイ運動をやっています。みんなでウチナー口をつかい、自分たちの文化を大切にしようという運動です。

私は薩摩川内市出身で鹿児島には18年いました。沖縄には1990年から27年間います。そこで、自分の住む町に降りかかってきた辺野古の基地問題に翻弄されてきました。

私が沖縄に住み始めた頃は、基地問題の意味を全然分かっていませんでした。基地によって自然破壊や人権侵害など、社会のひずみが生じています。沖縄の社会全体に、基地という暗雲のしかかり、子供の貧困率などの様々なワーストワンが沖縄にはあります。

わたしは名護市に住んで、ここの市史編纂係の調査員として20年働いていますが、地域の昔話、伝統から、最近では沖縄戦の調査・執筆

に関わり、そこで戦争の延長線上に沖縄の問題があるということに身染みて感じています。

### 辺野古新基地建設問題とは何か

名護市は本島のちょっと北の真ん中あたりにある大きい市で、周辺にはたくさんの基地があります。嘉手納空軍基地、海兵隊基地。沖縄には0.6%の国土に、75%の基地があることで有名です。去年の12月に高江のヘリパッドが完成し、過半が返還され、今は70%になっています。海兵隊の基地がほとんどで、彼らは戦争で一番初めに殴り込み部隊として派遣される、若者が多い部隊です。彼らは本国で抑圧され、外国に来た解放感もあるのか、犯罪率が一番高いのです。

北部訓練場では枯葉剤の実験もしていて、還ってきたけれども、汚染調査を日本政府や米軍がやってくれるという保証もありません。ここを国立公園にして、世界遺産にすると環境省は言っていますが、私たちから見ると汚染やオスプレイの問題でかなり難しいと思います。

### 沖縄の基地の作られ方

沖縄の基地は、米軍が上陸した後、日本本土を攻撃するために作ったわけですが、幸いにも8月15日に日本が負けたので使われませんでした。それがそのまま残って米軍基地になりました。そこは米軍が住民を「銃剣」で追い出して「ブルドーザー」で家屋等をつぶして基地にし、その後は本土から基地を移駐してきました。日本に復帰しても沖縄県民の願いとは裏腹に、基地負担は重くなりました。その不満は、1995年の米兵少女暴行事件で爆発し、8万5千人が集まって米軍基地に対して抗議の声を上げました。日米両政府が危機感を覚え、普天間基地を返すということになりました。

### 「普天間代替施設」のまやかし

もともと普天間基地のある場所は、宜野湾市の中心地でしたが、米軍は住民が避難している間に基地を作り、住民を収容所に入れました。これは基地を作る邪魔になるからでした。北部地域は収容所地域と位置付けられましたけれど、その収容所ではたくさんの方が、食糧不足や衛生環境の悪さから亡くなっています。キャンプ・シュワブの場所も元は大浦崎収容所というところで、ここに本部半島にいた人達が2万5千人全員連れてこられて、5カ月足らずのあいだに500人の方が亡くなっています。そういう収容所生活が終わって、ようやく帰ってみたら自分たちの集落は基地になっていて帰れない、そこで基地の周りに掘って小屋を建てて住み始めたというのが「普天間基地」の始まりです。それが基地の周辺に家などが立ち並び、世界一危険な基地と言われるゆえんです。米軍の高官や某作家が言うように、基地があったからその周りに集まってきたわけではないのです。

### 老朽化基地の整理

政府は普天間代替施設と呼んでいます、私たちは辺野古新基地と呼んでいます。沖縄の基地負担軽減を逆手にとって、老朽化した普天間から辺野古に最新鋭の基地を作ろうというのが日米の目論見だと見ているからです。大浦湾には辺野古弾薬庫があり、深い湾なのでオスプレイを積んだ大きな艦船が接岸できる栈橋も作れます。つまり普天間とは別の機能を持つ最新鋭基地になります。そして、すぐ隣の名護市から続く中部訓練場を北部訓練場とつなぎ、沖縄の中北部一帯が全部訓練区域になろうとしています。先日オスプレイが私の住んでいる隣の安部集落の近くに墜落しました。翌日見に行くと、機動隊が規制線を張って、市長も入れません。オスプレイは有害な炭素繊維やガラス繊維で

きていて、残骸は細かくなって回収できないような状況です。今後オスプレイは24機が100機になるといわれていて、私の家の近くの住民も「住めなくなる」と心配しています。

### ジュゴンの海に抱かれて

パワーポイントで私の住む地域の基地に反対する取組みを見ていただきたいと思います。鹿児島でどのくらい報道されているかわかりませんが、現在でも多くの方が座り込みなどで応援に来ていただき、心強く思っています。ただ、そこだけを見るのではなく、戦跡から沖縄戦を考えていただき、そこで普天間基地がなぜできたか、というような根源を見て考えていただきたいと思います。私たちは苦しい時期もありましたが、何とか反対の灯を絶やさないように、地を這いずるように頑張ってきたのは、先輩方の沖縄戦の体験とか、自然に対する強い思いとかを私たちが引き継がなければならないという思いからで、それを子や孫たちにつなぎたいと思っています。

### 名護市東海岸地域の紹介

大浦湾の自然は生物多様性の宝庫と言われます。私たちの住む地域は山が海にまで迫り、とても貧しい地域でした。琉球王国時代からの古い集落と、新しく入植した集落と両方あり、私が住んでいるのは新しい集落です。昔からここは半農半漁の集落で、大浦湾を見守るウタキの神々(祖先神)は海に向かって作られています。沖縄戦の時にはこの大浦湾にたくさんの艦船がひしめいていたそうです。基地建設のため、多くの船で埋め尽くされたその姿は「もう一回戦争が来たんじゃないか」と昔を思い出させたそうです。大浦湾ではジュゴンはいまはしばらく目視できなくなって、特に戦後の食糧難の時に食べられて、絶滅したと思われていたのですが、皮肉なことに基地建設の調査で生存が確認されました。ジュゴンを見ることは大変難しいですが、海草の「食み跡」を見ることによって、ジュゴンが生活していることがわかります。大浦湾自体も基地問題で注目され、新種が発見されるようになり、国際的に注目されるようになりました。







その2は抑止力が必要、そのために沖縄に基地を置くべきだという「神話」に、資料を示しながら1972年(復帰の年)は15.5% だったが、2012年には5.4% まで縮小、逆に返還された地域経済は、那覇で32倍、北谷で108倍などと拡大していることを統計グラフで明らかにしました。沖縄経済には基地が阻害要因になっているのです。

2つ目の抑止力問題でも、アメリカの戦略が変わってきています。それは沖縄に集中することによる危険性を米側が指摘しているのです。最後に沖縄のマスコミは県民の目線で報道していることを強調されました。

2日目(3月16日)は、早朝に辺野古新基地埋立現場で重機・土砂搬入阻止のため「座り込み」行動に参加。しかし沖縄県警の機動隊の導入で「ごぼう抜き」で排除される結果となりました。

午後は、那覇市に帰り、山城博治さんを含め3名の釈放を求めて那覇拘置所前で、支援の声を届けようとシュプレヒコールで訴えた。

3日目は、裁判傍聴券の抽選会場へ(一般傍聴席

22席に、381人が詰めかける。鹿児島の2名とも抽選にハズレル)。当日は、第1回目の公判のため裁判所前は物々しい警備が敷かれていましたが、裁判所前の公園で「裁判の事前集会」が開催され、約300名の傍聴支援者が結集しました。又、同日の18時から県庁前広場で報告集会が開かれ参加しましたが、飛行機の出発時刻が迫り、空港へ急ぎ帰路しました。



## 山城議長「保釈申請」が認められ、釈放される！

17日の公判のあと弁護側は山城議長の「保釈」請求をしたところ、那覇地裁は認めました。しかし、沖縄地方検察庁側は「(山城さんを)保釈すると証拠隠滅の恐れがある」という無理難題の理由をつけ保釈決定の執行停止を求め、福

岡高裁・那覇支部に控訴していました。

結果、私たちが帰鹿した翌日(18日)、高裁は、検察側の控訴を退け、「保釈を認める」(条件付きで)判決をくだしました。そして18日の夕刻には、山城議長は5か月ぶりに釈放されました。ご支援いただいた皆様にお礼申し上げます。しかし、今からが裁判闘争勝利に向けた闘

いの始まりです。



